



**ト一カロ株式会社**

2024 年 3 月期 決算説明会

2024 年 5 月 15 日

## イベント概要

---

[企業名]	トーカロ株式会社		
[企業 ID]	3433		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2024 年 3 月期 決算説明会		
[決算期]	2024 年度 通期		
[日程]	2024 年 5 月 15 日		
[ページ数]	46		
[時間]	13:30 – 14:18 (合計：48 分、登壇：25 分、質疑応答：23 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]	145 m <sup>2</sup>		
[出席人数]	20 名		
[登壇者]	4 名		
	代表取締役 社長執行役員	小林	和也 (以下、小林)
	取締役 常務執行役 員管理本部長	後藤	浩志 (以下、後藤)
	経理部長	細見	憲司 (以下、細見)

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



経営企画部長

清水 浩 (以下、清水)

[アナリスト名]\* いちよし経済研究所  
SBI証券

大澤 充周  
氏原 義裕

\*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com



## 登壇

---

**司会**：お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまからトーカロ株式会社様の決算説明会を開催いたします。今回の説明会は会場での開催に加え、ライブ配信形式のオンラインと合わせたハイブリッド形式で開催させていただきます。はじめに会社からお迎えしている4名の皆様をご紹介します。

まず、代表取締役社長執行役員の小林和也様です。よろしくお願いいたします。

次に、取締役常務執行役員管理本部長の後藤浩志様です。

**後藤**：後藤です。よろしくお願いいたします。

**司会**：よろしくお願いいたします。次に経理部部長の細見憲司様です。

**細見**：細見です。よろしくお願いいたします。

**司会**：よろしくお願いいたします。次に経営企画部長の清水浩様です。

**清水**：清水です。よろしくお願いいたします。

**司会**：よろしくお願いいたします。本日は小林社長様からご説明いただくことになっておりますが、ご説明後まず会場から質疑応答の時間といたします。

続きまして、今回オンラインでご参加されている方からもご質問をお受けする予定です。ご質問のある方は会社名、お名前をご入力の上チャットにてご質問ください。質問は説明中も受け付けております。それでは小林様、よろしくお願いいたします。

**小林**：皆さん、こんにちは。社長の小林です。本日はご多用の中、トーカロ株式会社2024年3月期の決算説明会にご参加いただき誠にありがとうございます。本日はリアルとライブ中継を合わせて約80名の皆様にご参加いただいているようです。それでは説明を開始いたします。よろしくお願いいたします。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





## 本日の内容

1. 2024年3月期 連結決算の概要
2. 2025年3月期 連結業績予想
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 資本コストや株価を意識した経営の実現について

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

本日も説明する内容はこの四つです。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

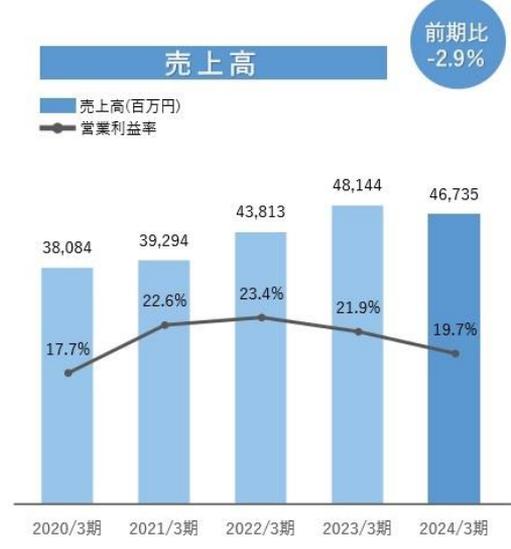


# 2024年3月期連結決算 ハイライト



POINT 半導体分野の落ち込みにより、4期ぶりの減収

POINT 経常利益は前期比12.2%減となるも、期初予想(87億円)を上回った



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

まず、2024年3月期の決算概要をご説明します。2024年3月期の実績のグラフです。左が売上高と営業利益率、右が経常利益と経常利益率です。2024年3月期の実績は売上467億円、営業利益91億円、経常利益96億円、経常利益率20.7%でした。

売上高は半導体分野の落ち込みにより、4期ぶりの減収となりました。経常利益は前期に対して12.2%減となりましたが、われわれの立てた期初計画の87億円をわずかに上回りました。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

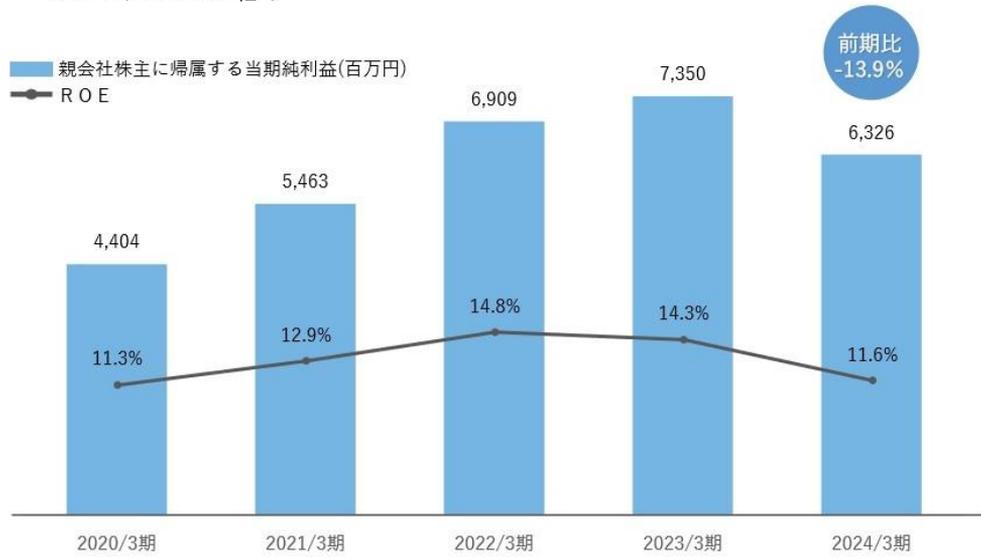




# 2024年3月期連結決算 親会社株主に帰属する当期純利益とROE



**POINT** 親会社株主に帰属する当期純利益は前期比13.9%減  
ROEは11.6%に低下



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

5

親会社株主に帰属する当期純利益は前期比 13.9%減の 63 億円、ROE は 11.6%になりました。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



6



# 2024年3月期 連結決算の概要



- 売上高は、半導体分野の落ち込みを他の分野で補うには至らず前期比2.9%減
- 経常利益は、利益率の高い半導体分野の売上減少により同12.2%減

(百万円)	2023/3期		2024/3期		前年同期比増減	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	率
売上高	48,144	100.0%	46,735	100.0%	△1,408	-2.9%
営業利益	10,558	21.9%	9,197	19.7%	△1,361	-12.9%
経常利益	11,003	22.9%	9,662	20.7%	△1,341	-12.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,350	15.3%	6,326	13.5%	△1,023	-13.9%
1株当たり当期純利益 (EPS)	120.83円	—	105.53円	—	△15.30円	—

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

6

売上高は、半導体分野の落ち込みを他の分野で補うには至らず、前期比 2.9%減でした。経常利益は、利益率の高い半導体分野の売上減少により、前期比 12.2%減となりました。また、経常利益率は 2.2 ポイント低下し 20.7%でした。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





# 2024年3月期 売上高 (分野別)



- 半導体・FPD分野の落ち込みにより、最大セグメントの溶射加工(単体)が減収
- 農業機械部品向けが増加したその他表面処理加工をはじめ、他のセグメントは好調に推移

(百万円)	2023/3期		2024/3期		前年同期比増減	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	率
売上高	48,144	100.0%	46,735	100.0%	△1,408	-2.9%
■ 溶射加工(単体)	36,184	75.2%	33,859	72.4%	△2,324	-6.4%
半導体・FPD	23,260	48.3%	19,557	41.8%	△3,702	-15.9%
産業機械	3,802	7.9%	4,923	10.5%	1,121	29.5%
鉄鋼	3,582	7.4%	3,651	7.8%	68	1.9%
その他	5,539	11.6%	5,727	12.3%	187	3.4%
■ その他表面処理加工	2,745	5.6%	3,019	6.5%	273	10.0%
■ 国内子会社	2,414	5.0%	2,457	5.3%	42	1.8%
■ 海外子会社	6,622	13.8%	7,257	15.5%	635	9.6%
受取ロイヤリティ等	177	0.4%	141	0.3%	△35	-20.0%

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

7

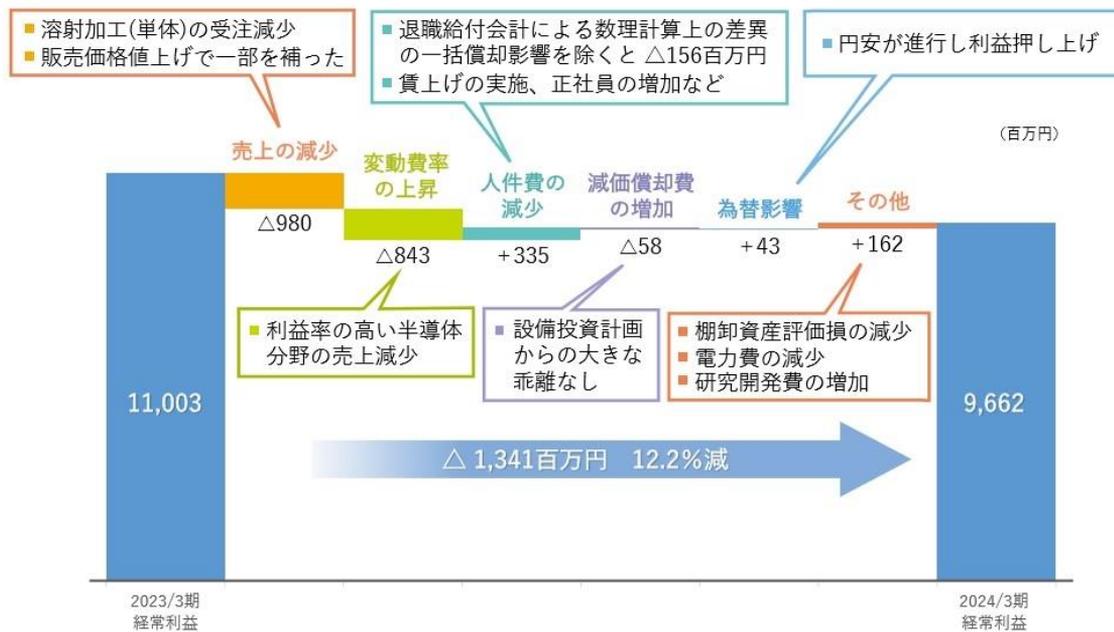
最大セグメントの溶射加工（単体）は産業機械やその他の分野は好調だったものの、半導体・FPD分野の落ち込みが大きく減収となりました。他のセグメントは好調に推移し、特に農業機械部品向けが増加したその他表面処理加工が好調でした。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



# 前年同期比 経常利益 増減要因分析



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

8

経常利益の前期比増減分析です。2024年3月期の経常利益は96億6,200万円と前期比13億4,100万円減少しましたが、主な原因は売上減少、売上構成の変化などによるものです。人件費については3億3,500万の減少となっていますが、当社は退職給付会計の数理計算上の差異を一括償却している関係で2024年3月期において、年金資産時価の上昇や金利上昇により、約5億円の費用の戻りが発生したことによります。この影響を除けば実質的に人件費は1億5,600円の増加でした。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



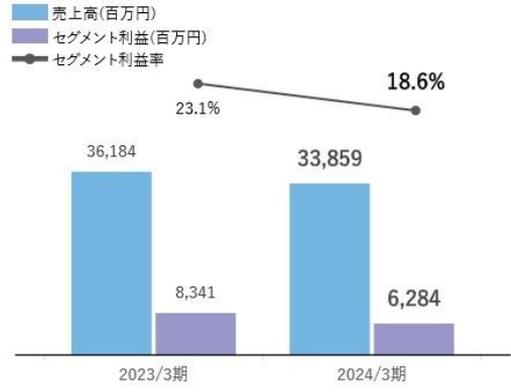
# 2024年3月期連結決算 セグメント別



## 溶射加工(単体)

産業機械およびその他分野は好調に推移するも、半導体・FPD分野の落ち込みにより、減収減益

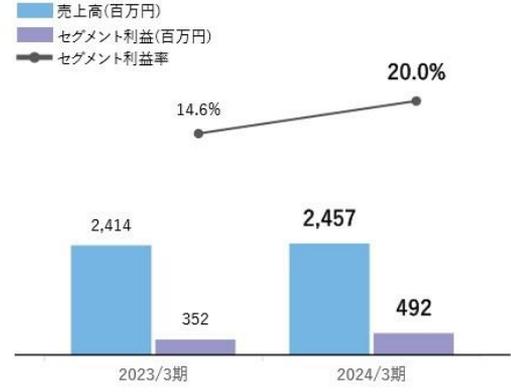
前年同期比増減率 売上高 …… △6.4%  
セグメント利益 …… △24.6%



## 国内子会社

自動車生産の改善で切削工具関係の受注が持ち直し、増収増益

前年同期比増減率 売上高 …… +1.8%  
セグメント利益 …… +39.7%



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

セグメント別の売上・利益について、前期との比較です。溶射加工（単体）は半導体・FPD 分野の落ち込みにより、減収減益となりました。

国内子会社は、自動車生産の改善で切削工具関係の受注が持ち直し、増収増益となりました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





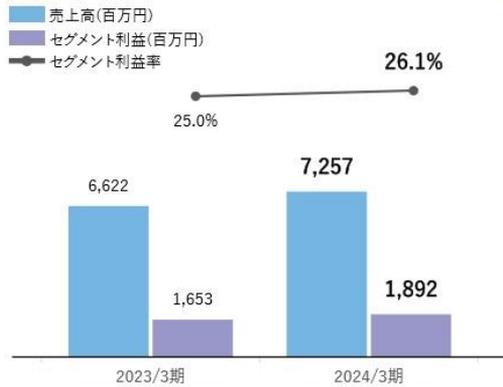
# 2024年3月期連結決算 セグメント別



## 海外子会社

中国で半導体関連の売上が伸び悩んだものの、  
その他は堅調に推移し、増収増益

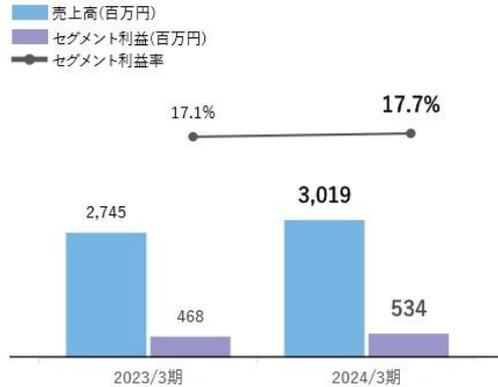
前年同期比増減率 売上高 …… +9.6%  
セグメント利益 …… +14.4%



## その他表面処理加工

農業機械部品向けの受注が増加し、増収増益

前年同期比増減率 売上高 …… +10.0%  
セグメント利益 …… +14.2%



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

10

続きまして海外子会社は、中国で半導体関連の売上が伸び悩んだものの、その他は堅調に推移し、増収増益となりました。

その他表面加工は農業機械部品向けの受注が増加し、増収増益となりました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





# セグメント情報



- 溶射加工(単体) は、半導体分野の売上減少により利益が大幅減
- 国内子会社は、主力の切削工具関係の受注が持ち直し利益伸長
- 海外子会社は、半導体関連売上が伸び悩んだものの、その他は堅調に推移し増収増益

(百万円)	2023/3期		2024/3期		前年同期比増減			
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高		セグメント利益	
					金額	率	金額	率
■ 溶射加工(単体)	36,184	8,341	33,859	6,284	△2,324	-6.4%	△2,056	-24.6%
■ 国内子会社	2,414	352	2,457	492	42	1.8%	139	39.7%
■ 海外子会社	6,622	1,653	7,257	1,892	635	9.6%	238	14.4%
■ その他表面処理加工	2,745	468	3,019	534	273	10.0%	66	14.2%
合 計	47,966	10,815	46,593	9,204	△1,372	-2.9%	△1,610	-14.9%

(注) 売上高のうち「受取ロイヤリティー等」は含まれておりません。

各セグメントの売上利益について、前期比の一覧表を示します。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





## 財政状態



- 総資産は、前期末比36億円の増加（有形固定資産の増加20億円）
- 自己資本比率は、前期末比1.3ポイント低下の71.2%
- 有利子負債は、前期末比22億円の増加

(百万円)	2023/3期	2024/3期
	4Q末	4Q末
総資産	74,263	77,940
自己資本	53,839	55,460
自己資本比率	72.5%	71.2%
有利子負債残高	2,802	5,002

2024年3月期末の財政状態です。総資産は、有形固定資産の増加などにより、前期末比36億円の増加となりました。自己資本比率は前期末比1.3ポイント低下し、71.2%となりました。有利子負債は前期末比22億円増加し、50億円となりました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





# キャッシュ・フローの状況



- 当期のフリーキャッシュ・フロー（営業CF + 投資CF）は+32億円
- 投資CF / 有形固定資産の取得 前期：△46億円 当期：△47億円
- 財務CF / 配当金の支払額 前期：△28億円 当期：△31億円  
自己株式の取得 前期： — 当期：△20億円

(百万円)	2023/3期 通期	2024/3期 通期
営業キャッシュ・フロー	9,894	7,877
投資キャッシュ・フロー	△ 5,094	△ 4,634
財務キャッシュ・フロー	△ 4,561	△ 3,241
現金及び現金同等物の期末残高	19,520	19,656

2024年3月期のキャッシュ・フロー状況です。営業キャッシュ・フローがプラス78億円、投資キャッシュ・フローはマイナス46億円で、フリーキャッシュ・フローはプラス32億円、健全な状況です。財務キャッシュ・フローは配当および自己株式取得と借入増加の差し引きでマイナス32億円となりました。その結果、2024年3月期のキャッシュの増減はほとんどありませんでした。そこで期末キャッシュ残高は前期から横ばいの196億円でした。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



# 売上高と経常利益の見通し

POINT 半導体分野の回復により、過去最高の売上高となる見込み



POINT 人件費増加を含む製造原価上昇により、経常利益率は横ばいの見通し



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

15

次に、2025年3月期の連結業績予想についてご説明します。2025年3月期の業績予想は、売上510億円、営業利益105億円、経常利益105億円を予定しています。売上高は半導体分野の回復により過去最高を更新する見込みです。

経常利益率については、人件費増加を含む製造原価の上昇により横ばいとなる見込みです。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



# 親会社株主に帰属する当期純利益と ROE の見通し



**POINT** 親会社株主に帰属する当期純利益は前期比8.7%増  
ROE は12.0%に小幅改善



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比 8.7%増の 68 億円、ROE は 12%と小幅な改善にとどまる見込みです。今年度以降に積極的な設備投資を見込んでいることもあり、自社株買いの実施は現段階では見送っていますが、業績の進展などを見極めつつ、引き続き検討していきます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





# 2025年3月期 連結業績予想



(百万円)	2024/3期 通期		2025/3期 通期		前期実績比増減	
	実績	構成比	予想	構成比	金額	率
売上高	46,735	100.0%	51,000	100.0%	4,264	9.1%
■ 溶射加工(単体)	33,859	72.4%	37,632	73.8%	3,773	11.1%
半導体・FPD	19,557	41.8%	23,005	45.1%	3,447	17.6%
産業機械	4,923	10.5%	4,603	9.0%	△320	-6.5%
鉄鋼	3,651	7.8%	4,037	7.9%	385	10.6%
その他	5,727	12.3%	5,987	11.8%	260	4.6%
■ その他表面処理加工	3,019	6.5%	2,738	5.4%	△281	-9.3%
■ 国内子会社	2,457	5.3%	2,708	5.3%	250	10.2%
■ 海外子会社	7,257	15.5%	7,771	15.2%	513	7.1%
受取ロイヤリティー等	141	0.3%	150	0.3%	8	5.8%
営業利益	9,197	19.7%	10,500	20.6%	1,302	14.2%
経常利益	9,662	20.7%	10,500	20.6%	837	8.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	6,326	13.5%	6,880	13.5%	553	8.7%
1株当たり当期純利益 (EPS)	105.53円	—	115.75円	—	10.22円	—
自己資本利益率 (ROE)	11.6%	—	12.0%	—	0.4pt	—

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

17

前期実績との比較表です。売上高予想は前期比 42 億円増で、その主要因は半導体・FPD 分野での 34 億円の増収です。売上高の 45%が半導体・FPD 分野となっています。経常利益予想は前期比 8 億円の 105 億円で、経常利益率は 20.6%になります。経常利益率が横ばいとなる一因は前期に発生した退職給付会計上の約 5 億円の費用の戻りです。

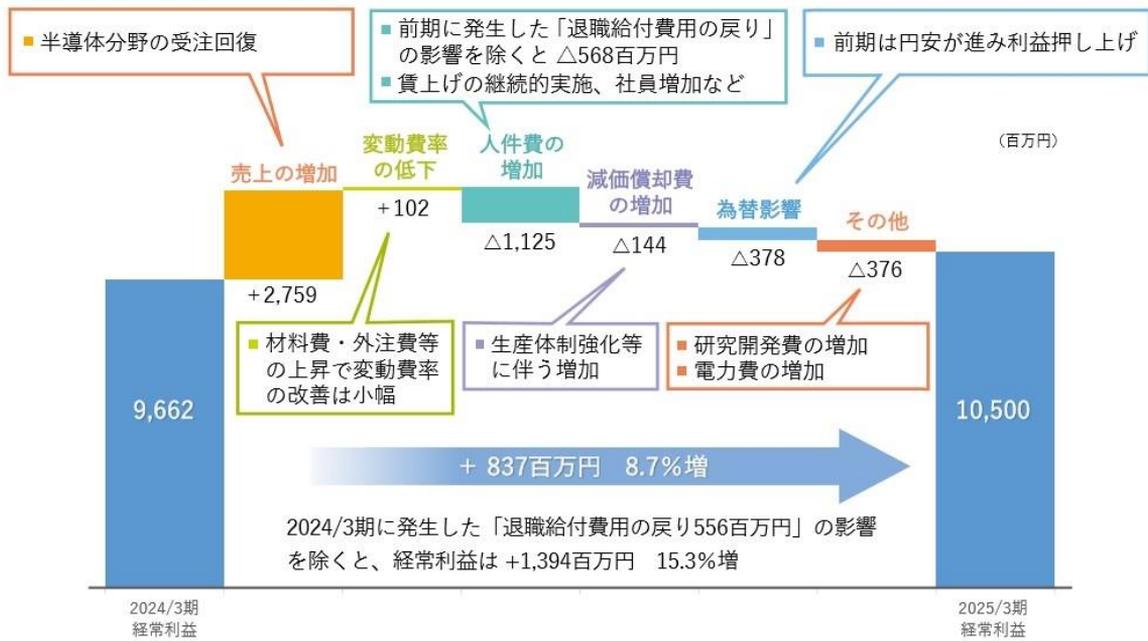
## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



# 連結業績予想 経常利益 増減要因分析

TOCALO



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

18

2025年3月期の経常利益予想の前年同期比増減分析です。主なプラス要因は売上の増加で、特に半導体分野の増加です。マイナス要因としては、人件費11億2,500万円増が大きく影響しているように見えますが、前期に発生した退職給付費用の戻り5億5,600万円が含まれており実質的な人件費の増加は5億6,800万円の予定です。

要するに、前期の経常利益には退職給付費用の戻り5億5,600万円が含まれていて、これを除くと、前期の経常利益は実質約91億円となります。そのため、今期の経常利益105億円を見た場合には、前期比で13億9,400万円、15.3%増となります。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

**SCRIPTS**  
 Asia's Meetings, Globally



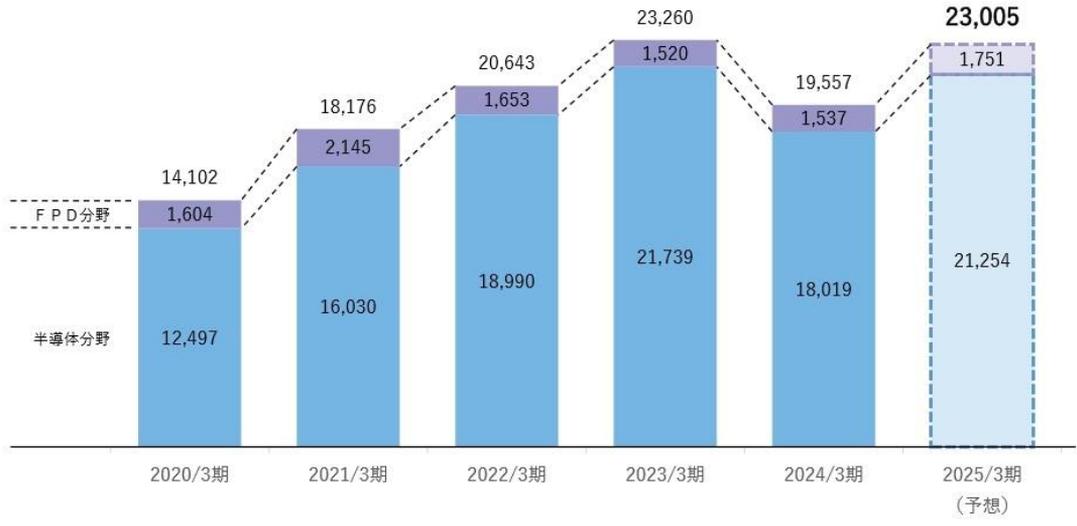
# 半導体・FPD分野の売上推移



半導体業界が回復局面を迎えており、在庫調整は間もなく一巡し  
当社の受注も段階的に回復する見通し

前期比  
+17.6%

(百万円)



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

半導体・FPD 分野の売上推移です。2025 年 3 月期の予想は 230 億円、そのうち半導体が 212 億円、FPD が 17 億円です。半導体業界が回復局面を迎えており、在庫のほうもまもなく一掃し、当社の受注も段階的に回復する見込みです。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





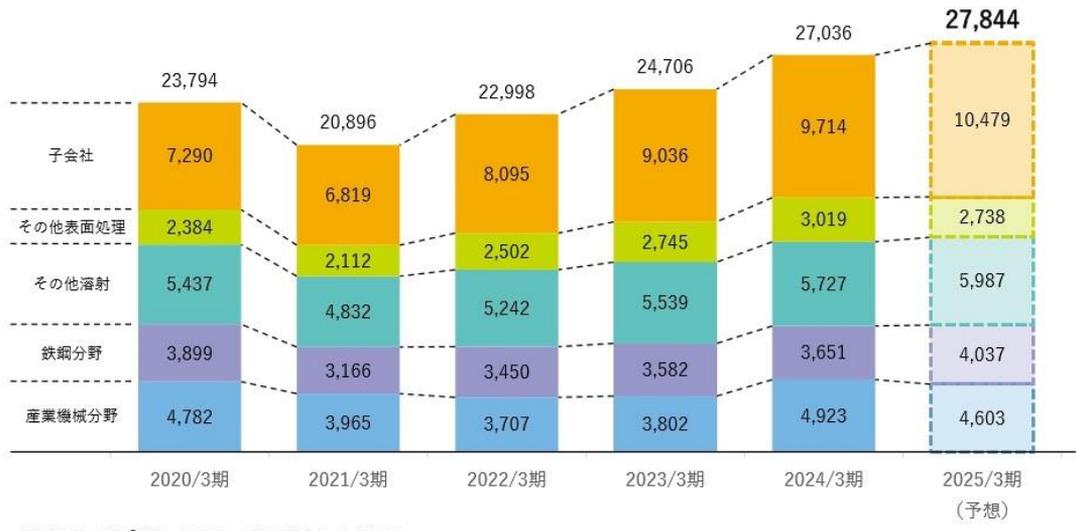
# 半導体・FPD分野以外の売上推移



半導体・FPD分野以外の売上高は、前期比3.0%増を見込む  
産業機械分野は、前期好調の発電設備向けメンテナンスが反動減

前期比  
+3.0%

(百万円)



(注) 売上高のうち「受取ロイヤリティ等」は含まれておりません。

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

20

半導体・FPD 分野以外の売上推移です。2025 年 3 月期の予想は 278 億円と前期の 270 億円から 3%の増加を見込んでいます。産業機械分野は、前期好調だった発電設備向けメンテナンスが、今期は計画が少なく、減収となります。その他表面処理については、農業機械部品向け加工が顧客の在庫調整で減収となります。

## サポート

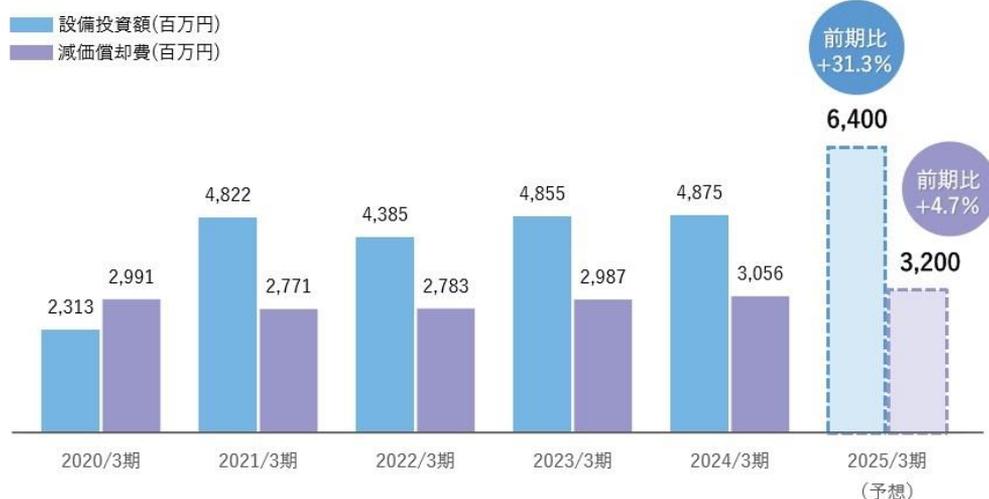
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



# 設備投資額と減価償却費

**POINT** 2025年3月期の設備投資予定額 64億円

- トーカロ 50億円：神戸工場新棟建設、増産対応・生産効率化、研究設備増強など
- 国内子会社 4億円：生産能力増強など
- 海外子会社 10億円：東賀隆(昆山)・漢泰国際電子(台湾)での新工場立ち上げなど



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

設備投資額と減価償却費の推移です。2025年3月期の計画として、設備投資額64億円、償却費32億円を見込んでいます。

トーカロ単体では、神戸工場での新棟建設の他、半導体分野向けを中心とする増産対応や生産効率化の設備投資など総額で50億円を予定しています。海外子会社においては、中国昆山や台湾での新工場立ち上げに伴い10億円の設備投資を予定しています。

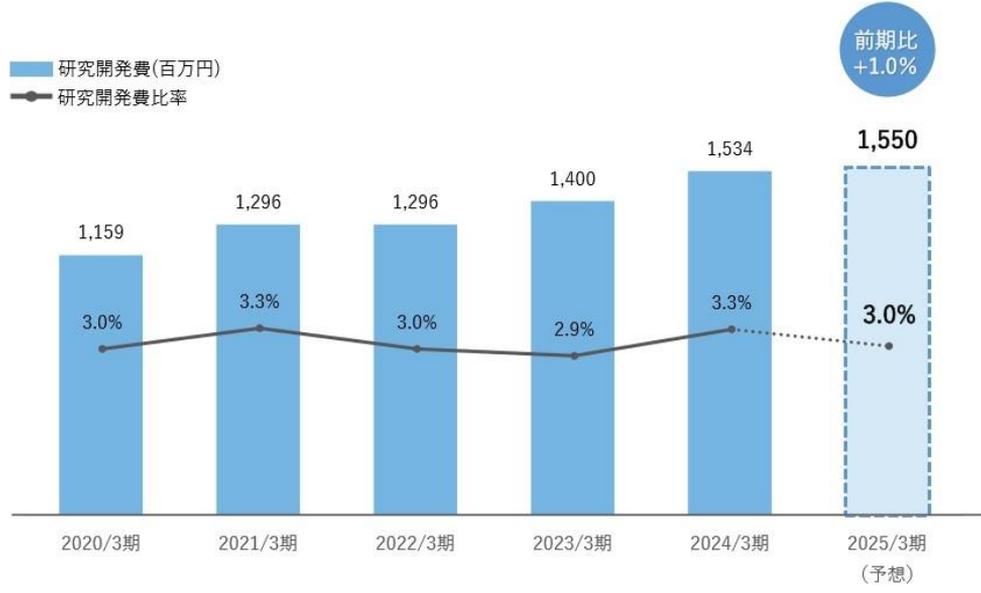
## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

# 研究開発費



**POINT** 研究開発費は連結売上高比で3%程度を維持



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

研究開発費の推移です。2025年3月期の研究開発費は15億5,000万、売上高比率3%を見込んでいます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

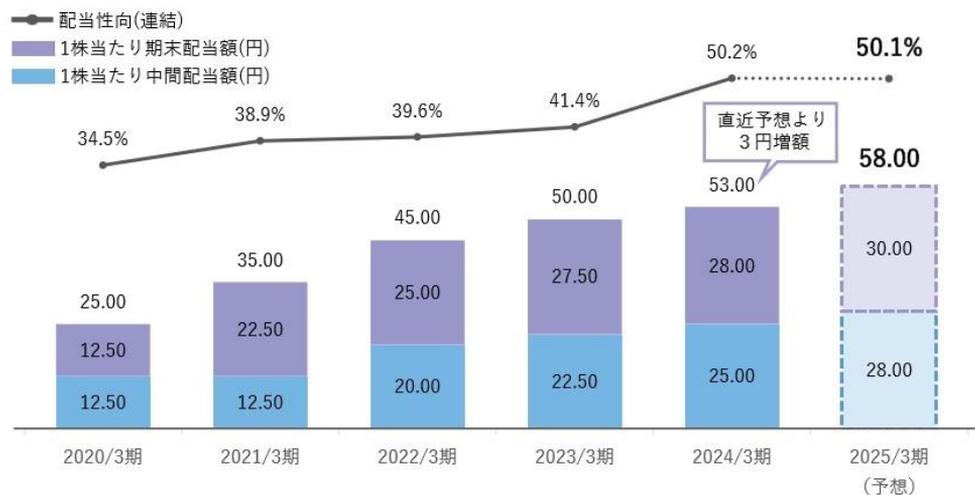


# 1株当たり配当額と配当性向の推移

POINT 2025年3月期の年間配当は58円（配当性向50.1%）を予定

## 株主還元方針

- 連結配当性向50%程度および純資産配当率(DOE)5%以上を目標とする
- 自己株式の取得も、事業環境や財務状況などを考慮しつつ機動的に実施



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

23

配当額と配当性向の推移です。2024年3月期は、期末配当を直近予想より3円増額し、年間配当は1株あたり53円といたします。

1株利益105.53円、配当性向50.2%としています。2025年3月期の年間配当は1株あたり58円を予定しています。1株利益予想115.75円、配当性向50.1%を予定しています。

## サポート

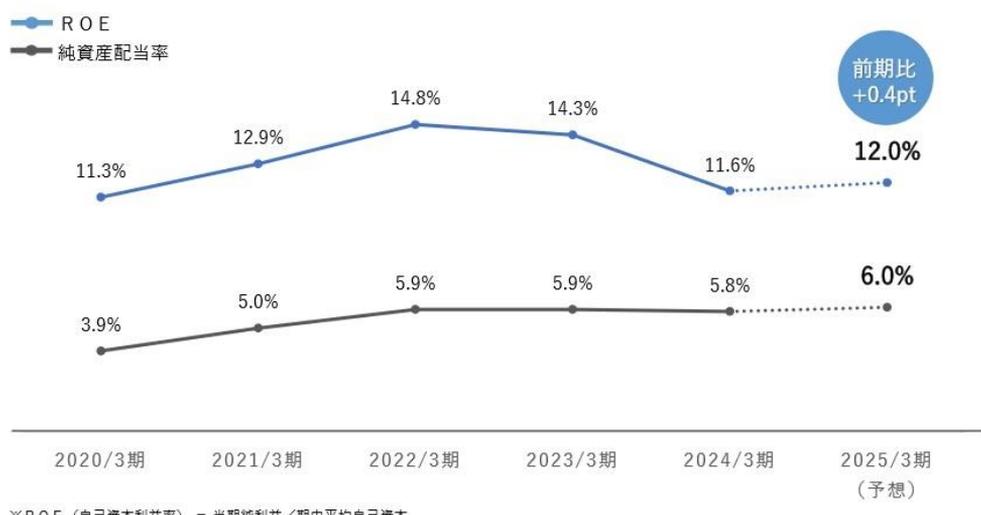
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



# ROEと純資産配当率の推移



**POINT** ROE※の改善に伴い、純資産配当率※は6%程度となる見込み



※ROE (自己資本利益率) = 当期純利益 / 期中平均自己資本  
 ※純資産配当率 = 1株当たり配当金 / 期中平均1株当たり純資産 (= ROE × 配当性向)

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

ROEと純資産配当率 DOE の推移です。2025年3月期はROE 12.0%、純資産配当率 6.0%程度となる見込みです。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

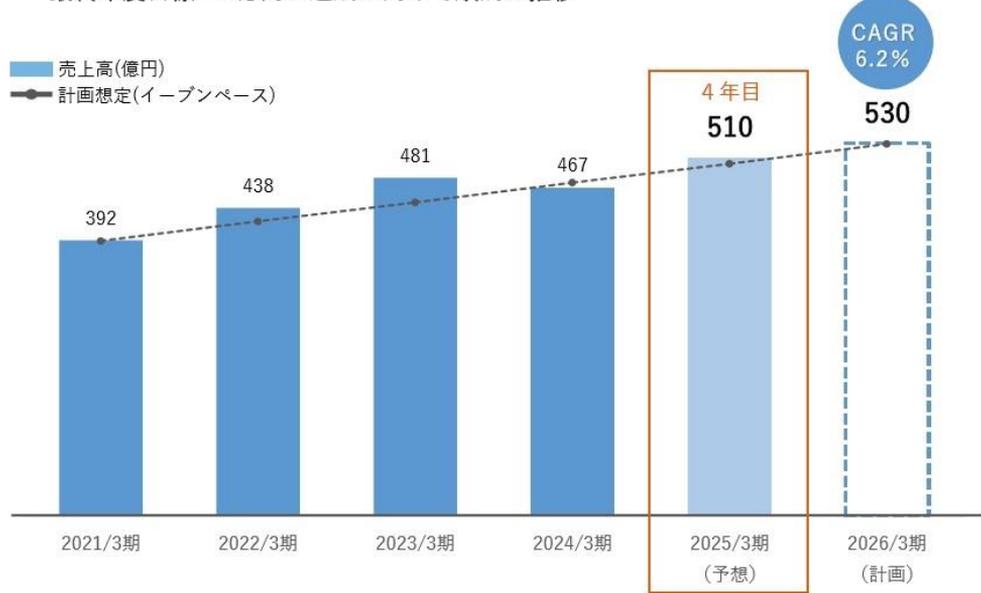




# 中期経営計画 (売上高) の進捗状況



**POINT** 2025年3月期の売上予想は計画をやや上回るペース  
最終年度目標530億円の達成に向けて順調に推移



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

続いて、中期経営計画の進捗についてご説明します。当期は5年計画の4年目に当たります。中期経営計画の売上目標に対する進捗として、2025年3月期の予想の510億円は、計画をやや上回るペースです。最終年度2026年3月期の目標である530億円達成に向けて順調に推移しています。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

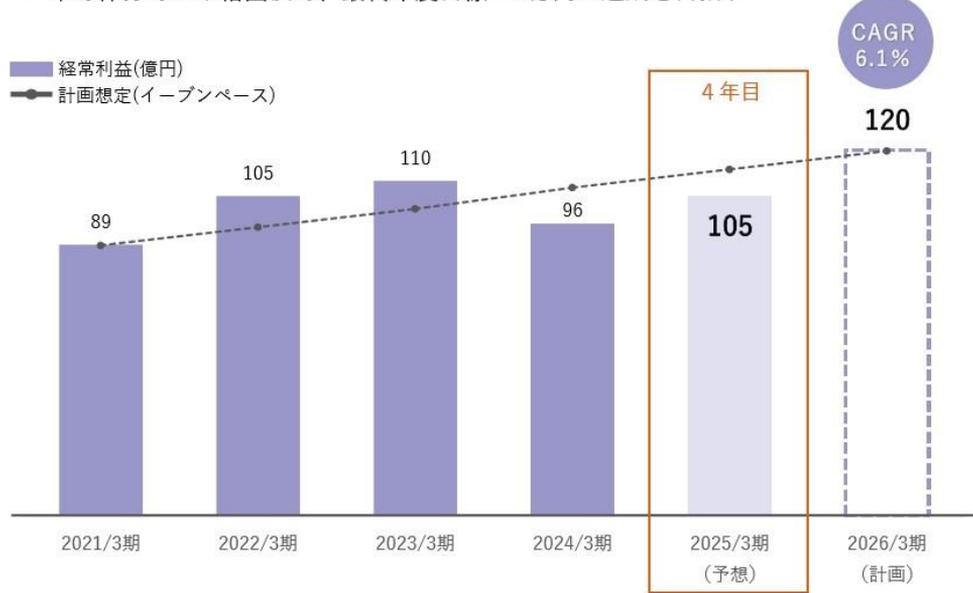




# 中期経営計画（経常利益）の進捗状況



**POINT** 2025年3月期の経常利益予想は計画に対して遅れ  
半導体分野の本格回復で、最終年度目標120億円の達成を目指す



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

27

経常利益の進捗については、2025年3月期予想105億円は、計画に対して遅れている状況です。年度後半からの半導体分野の本格回復で、計画最終年度の2026年3月期の経常利益目標120億円は達成できるものと考えています。

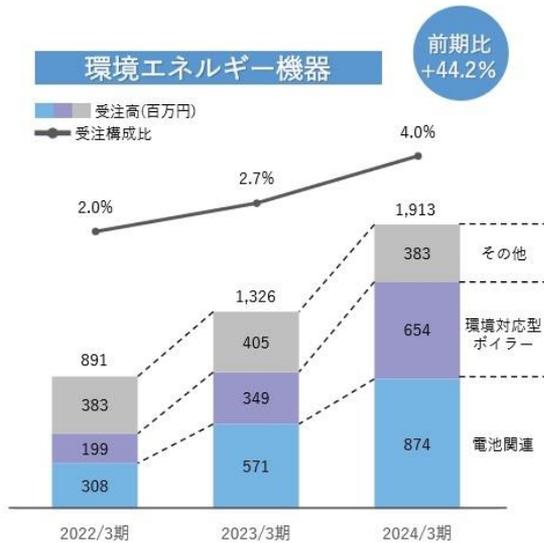
## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



# 環境分野の受注推移

POINT 電池関連機器や環境対応型ボイラーなどの加工が大きく伸長



POINT 顧客の設備部品等を補修・再生するための加工も順調に成長



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

当社は、顧客の GHG 排出削減や省エネ対策、自然エネルギー発電の普及、効率化に向けたコーティング技術の開発と、PR に注力しています。その KPI として環境分野の受注金額を設定しており左のグラフが環境エネルギー機器、右のグラフが補修・再生品の受注推移になっています。

環境エネルギー機器は電池関連機器や環境対応型ボイラーなどの加工が大きく伸長しています。補修再生品とは顧客の設備部品等を補修再生するための加工ですが、こちらも順調に成長しています。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

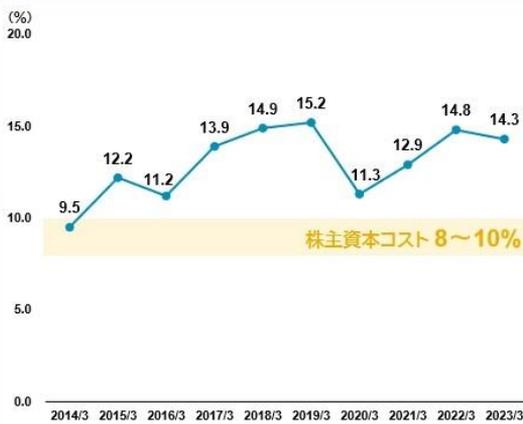
直近9年間のROEが株主資本コストを上回っていることから、相応の資本収益性を維持できているものと認識。その結果として一定の市場評価を獲得し、過去10年間のPBRは1倍を超える水準で推移

### 当社の株主資本コスト

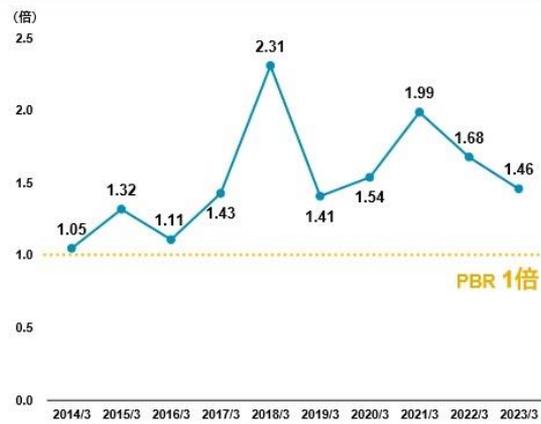
**8~10%程度** (参考値)

一般的に妥当とされている計算方法によって証券会社各社が当社向けに試算した数値や、証券アナリストが算出した当社の期待収益率を総合的に勘案し、当社に要求されている株主資本コストは8~10%程度と認識

#### ROEの推移



#### PBRの推移



© 2024 TOCALO Co., Ltd. All Rights Reserved. | 30

最後に 2024 年 3 月に開示しました資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について簡単にご説明します。

当社の資本コストを 8%から 10%程度と認識していますが、過去 9 年間の ROE はそれを上回っており、相応の資本収益性を維持できているものと考えています。

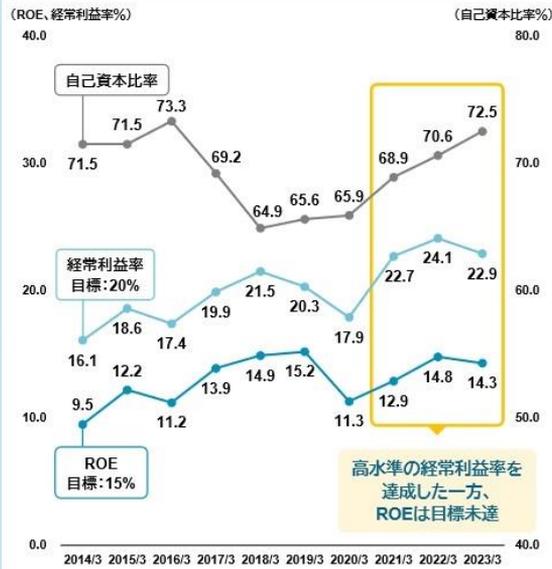
そして、PBR は 1 倍超で推移しています。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

PBRは安定的に1倍以上を維持できているものの、順調な業績進展により自己資本が積み上がった影響で、ROEは目標未達となっている。今後は資本効率向上のため、保有資産に対する積極的な施策が求められる

● 重要指標の推移



● バランスシートの状況



© 2024 TOCALO Co.,Ltd. All Rights Reserved. | 31

しかしながら自己資本が積み上がった影響で ROE が目標の 15% に未達となっており、今後は資本効率向上の施策を打っていきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

株主資本価値をさらに高めるため、3つの施策を通じてROE15%の安定的な達成を図る

目標

## ROE15%を安定的に達成する

対応策

### 1 収益力の向上

- 溶射を中心とする表面改質のトップメーカーとして存在感を発揮  
既存市場に頼ることなく、新皮膜の開発や新市場を創出することで事業拡大を図る
- 品質管理の強化と生産性の向上  
自動化・IoT化の推進、新規成膜装置の開発等により、製造プロセスを高度化・効率化
- 技術優位性の確保と収益性の向上  
設備投資(年間50~70億円)と開発投資(売上高比率5%程度)を継続的に実施

### 2 現預金水準の最適化

- 現預金水準を段階的に引き下げ  
生産増強や技術開発への積極投資を支える強い財務体質は維持しつつも、今後は資本効率の向上を図るため、最適な現預金水準を追求。営業CF+余剰現預金を原資として、成長投資(設備投資、開発投資、人的資本投資、M&A等)と利益配当へ積極的に配分し、残りの原資について喫緊の資金需要がない場合は追加的な株主還元も検討

### 3 株主還元の強化

- 高水準かつ安定的な配当を継続  
連結配当性向50%程度(2023年3月期末実績:41.4%)、純資産配当率(DOE)5%以上を目標とする
- 自己株式の取得も機動的に検討

© 2024 TOCALO Co., Ltd. All Rights Reserved. | 32

具体的には、この三つの施策、1.収益力の向上、2.現預金水準の最適化、3.株主資本還元の強化を通じてROE15%の安定的な達成を目指します。

## サポート

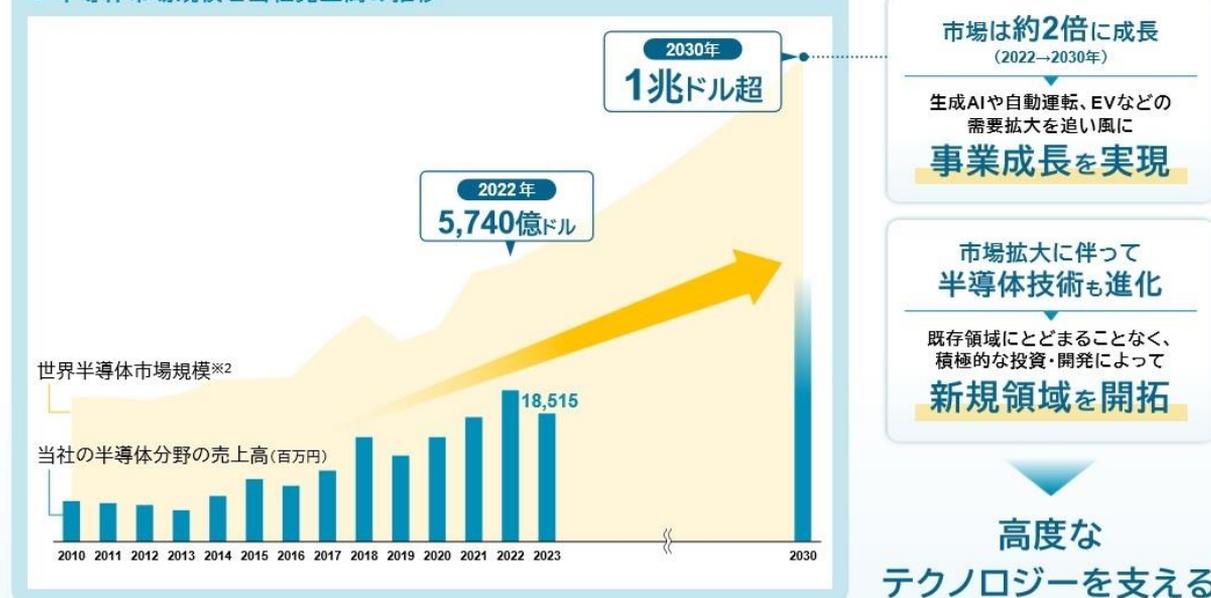
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## ① 収益力の向上 (1/3 半導体分野の成長)

TOCALO

半導体分野※1においては、国内トップシェアの強みを活かし、市場拡大を事業成長に転換していく。また設備投資や開発投資を継続的に実施することで、半導体技術の進化に対応した新たなソリューションの展開を目指す

### ● 半導体市場規模と当社売上高の推移



※1 半導体製造装置部品に、発塵防止(耐プラズマ)や静電吸着の機能を付与する加工  
※2 一般社団法人電子情報技術産業協会 世界半導体市場統計(WSTS)をもとに当社作成

© 2024 TOCALO Co., Ltd. All Rights Reserved. | 33

まず、収益力の向上についてですが、半導体分野については、半導体市場は2030年度に1兆ドルを超えと言われており、それに伴って当社の関係する半導体製造装置の需要も拡大していきます。この機会を当社の成長にしっかり結びつけつけるために、設備投資や開発投資を計画的に実行し、増産対応とともに、新たなソリューション創出を行っていきます。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

## ① 収益力の向上 (2/3 環境・エネルギー分野の開拓)

TOCALO

半導体に次ぐ市場として、環境・エネルギー分野の開拓を進めることで事業拡大を図る。顧客（製造業）のニーズとして、環境負荷低減や省エネなどへの対応の重要性が高まるなか、当社の保有技術で顧客に高付加価値を提供する



次に半導体に次ぐ市場として、環境・エネルギー分野の開拓を進めることも重要な成長戦略です。顧客（製造業）のニーズとして、環境負荷低減や省エネルギーなどへの対応の重要性が高まる中、当社の保有技術で顧客に高付加価値を提供していきます。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

# ① 収益力の向上 (3/3 製造プロセスと収益構造)

当社の表面改質加工は労働集約型である一方、オーダーメイド仕様が多く完全自動化との親和性は低い。そのため、収益力の向上を実現するには、効果が期待できる適切な製造プロセスに対して高度化・効率化を進めることが必要

## ● 当社の表面改質加工の特徴



改善可能な業務をしっかりと見極め、自動化・IoT化によって人への依存を低減。  
生産性の向上とともに品質管理の強化を図る

また、当社の表面改質加工は労働集約型である上に、オーダーメイド仕様が多いため、改善効率が期待できる製造プロセスをしっかりと見極めながら、高度化・効率化に取り組んでいくことが重要だと考えています。工程によっては、優れた技能と自動化をうまく組み合わせることが当社の強みとなり、収益力の向上に繋がると考えています。

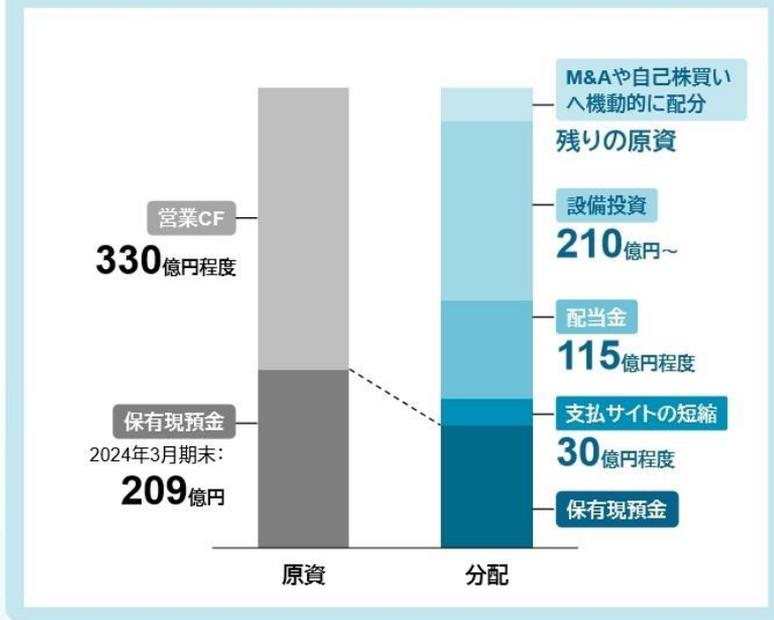
## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## ② 現預金水準の最適化

資本効率の向上を図るため、最適な現預金水準を追求。営業CF + 余剰現預金を原資として成長投資と利益配当へ積極的に配分し、残りの原資について喫緊の資金需要がない場合は追加的な株主還元も検討

### ● キャピタル・アロケーション方針（2025/3期～2027/3期）



機動的な投資を可能にする  
キャッシュは手元資金として不可欠。

### 最適な現預金水準を

段階的に見極めていく



安定した財務体質と  
高水準なROEのバランス

資本効率の向上を図るため、最適な現預金水準について検討していきます。

これからの3年間の方向性としてはこちらの資料をご覧ください。

営業キャッシュ・フロープラス余剰現預金を原資として設備投資と配当金に分配し、またサプライヤーへの支払いサイトの短縮化の影響も考慮した上で、他に喫緊の資金需要がなければ、追加的な株主還元も検討します。今後の半導体分野の回復、成長を見据えて、積極的な設備投資を検討しています。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## — 2025/3期～2027/3期の主な設備投資(予測)

TOCALO

今後も市場の伸びが予測される半導体・FPD分野の拡大を主眼に置き、①新工場の建設、②先端設備の導入、③研究設備の導入の3本立ての設備投資を実行する

### ① 新工場の建設

神戸工場の新工場棟 (兵庫県神戸市)	13億円	半導体・医療分野などで、その他表面処理の適用拡大と生産効率化を図る 2024年5月着工、2025年3月竣工予定
鈴身事業所の新工場棟 (千葉県船橋市)	56億円	半導体製造装置メーカーからの受注増加を見据え、増産体制を整える 2024年8月着工、2026年4月竣工予定、設備導入や顧客認証を経て2027年初頭稼働
北九州工場の新工場棟 (福岡県京都市)	32億円	半導体製造装置メーカーからの受注増加を見据え、増産体制を整える 2024年12月着工、2026年7月竣工予定、設備導入や顧客認証を経て2027年春頃稼働

### ② 先端設備の導入

自動化・省人化や高機能化 を企図した先端設備	12億円	自動化・省人化等を実現する先端設備の導入により、生産性向上と品質 管理の強化を図る
---------------------------	------	--

### ③ 研究設備の導入

次世代技術開発のための 研究装置、測定・評価設備	10億円	半導体の微細化・多層化への対応をはじめ、新事業領域の開拓に向けた 次世代皮膜開発のための研究設備等を導入する
-----------------------------	------	---

(注) 更新投資等は含んでおりません。

© 2024 TOCALO Co., Ltd. All Rights Reserved. | 37

市場の伸びが期待できる半導体・FPD分野の拡大を主眼に置き、①新工場の建設、それから②先端設備の導入、③研究設備の導入の3本立ての設備投資を実行する考えです。

なお、これらは現時点で具体的に見えているものだけで算出しており、新工場導入に関する設備や更新投資などは含んでいません。実質にはもっと大きな投資が必要になると思っています。

## サポート

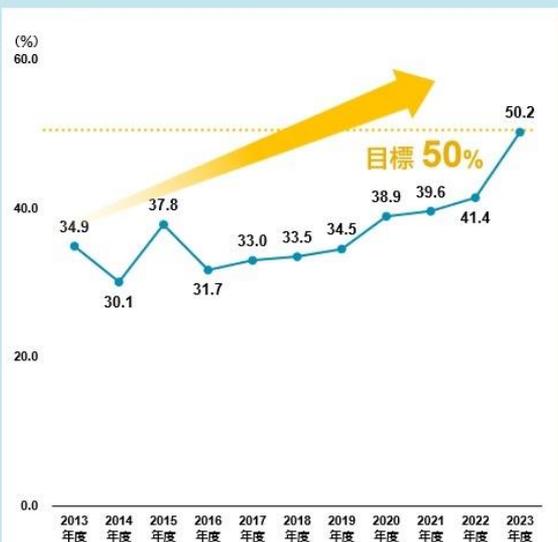
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

 **SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

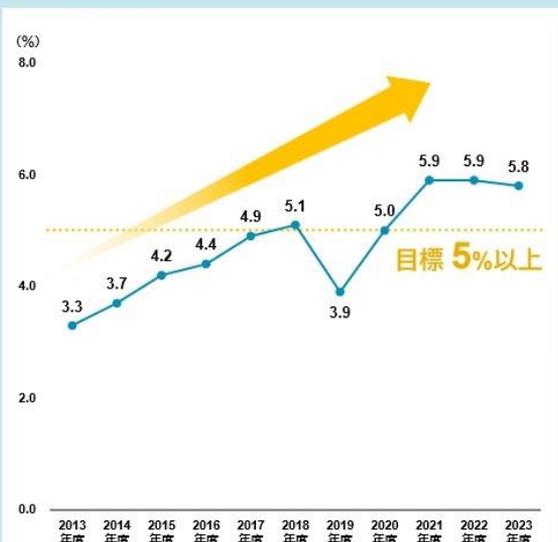
### ③ 株主還元強化

連結配当性向50%程度(2023年3月期実績:41.4%)、純資産配当率(DOE)5%以上を目標とし、高水準かつ安定的な利益配当を図る。また自己株式の取得についても、機動的に実施を検討

#### ● 連結配当性向の推移



#### ● DOEの推移



株主還元については、2024年3月期からの新方針に基づき、配当性向50%程度およびDOE5%以上を目標とし、高水準かつ安定的な利益配当を行ってまいります。

ご説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## 質疑応答

---

**司会 [M]**：ご説明どうもありがとうございました。それではご案内のとおり、最初は会場にお集まりの皆様からの質疑応答に入ります。ご質問のある方は挙手していただければ係の者がマイクを持ってまいります。

なおこの説明会は質疑応答部分を含め、全部を書き起こして公開の予定です。従いまして、もし匿名を希望される場合は質問される際、氏名を名乗らないようお願い申し上げます。それではご質問、はい、ありがとうございます。今マイクを持ってまいります。

**氏原 [Q]**：いつもお世話になっております。SBI証券の氏原と申します。何問かご質問させていただきます。もし特定のお客様に関わるようで、御社から発言が無理であればもちろんご回答いただかなくて結構です。

まず1問目は、ちょっと足元、4-6とか7-9のお仕事の忙しさの状況の感覚的な質問なのですが、御社の溶射加工（単体）です。

トーカロ様の本体でやってらっしゃる売上高の推移を見ると、終わった期の第3四半期85億、第4四半期も85億で、上期から大きく改善されていらっしゃるように見えますので、先ほどの社長のお話からすると、4-6ももうちょっと忙しくなっていらっしゃるのではないかなという何となく感触を持つのですが、質問としては御社の半導体向けの、出荷状況っていうのは先ほど社長が段階的に回復する予定だとおっしゃっていたのですが、現状どんな雰囲気か動いていらっしゃるか、ちょっとお話いただけるようだったら教えてください。

**氏原 [Q]**：御社その前の期も90億台とありますから、85億だったら悪くはないわけですよ。好調なわけですよ。

**小林 [A]**：そうですね、状況としましては、回復しているというか、好調な会社さんとまだそれなりの会社さんとあって、今の段階は、100%動いているところもあるし、50%程度のところもあるかなというような状況で、以前よりも全体的な数字が増えていて、われわれの生産キャパも増えているのだけど、そのわれわれの増えた生産キャパから見ると、まだもう少し足りないかなという状況です。

**氏原 [Q]**：そういう感じなのですね。

**小林 [A]**：そうですね、7割ぐらいかなっていう感じです。はい、うちの生産キャパから見ると。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

**氏原 [Q]**：そうですね、社長の先ほどのコメント聞いていますと、ちょっと下期にはもう少しレベル感が上がってきそうだなっていうのは、社長の個人的な思いというかお客さんの動き見てそういう感触は持ってらっしゃるわけですか。

**小林 [A]**：そうですね。徐々に回復するっていうか、言葉で言うと在庫も一掃してという言葉はさっき使ったのですが、今われわれがお付き合いさせていただいています企業様は基本的には半導体製造装置を使われている会社さんメインでやっています、装置の場合はある程度、部品在庫がいろんなところで保有されていて、その在庫がなくなると、なかなか本格的に増えないというか、われわれの注文が増えない部分があって、遅ければ年内、早ければ夏には在庫が一掃するっていうような情報が入っているかなという、そんな意味合いですね。

**氏原 [Q]**：わかりました、ありがとうございます。

あとすみません、何問かあるのですが御社の説明会資料の 21 ページに今期の投資 64 億っていう数字がございます。それとですね、37 ページに、64 億のうち今期、ここの 37 ページには神戸工場の新工場棟で 13 億と書いてあります。

質問としましては、この 64 億の投資のうち、来年度の減価償却が結構上がるかなと思うので、質問としては 64 億のうち償却、御社定額だったか定率だったかちょっと忘れちゃっているのですが、8 年の定率でいくと結構来年度償却がドーンと増えるので、いわゆる償却が早い設備の投資は、この 64 億のうちどれぐらいありますかっていうような質問です。

その流れでいくと、来年度の償却って 32 億じゃなくてももうちょっと上がるのではないかなと思っているので、もし何か感覚があれば。もし社長が難しければ、後藤さんからお願いしたいのですが。

**後藤 [A]**：ご質問ありがとうございます。では後藤からご回答します。

ちょっと精緻に計算できているわけじゃないのですが、減価償却費 32 億から微増はするかなと思っています。

機械設備は 6 年定率償却していますので、おっしゃるように新規にする投資した分は増えるのですが、ただ過年度分の落ちていくのも結構早うございますので、その 32 億から劇的に減価償却が伸びるといふふうには考えていない。こんなところでよろしいでしょうか。

**氏原 [Q]**：はい。ありがとうございます。あとちょっと最後、長くなるので最後にしますが、この 37 ページの新工場の建設で 2 番目の、これ鈴身と読むのですかね。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



鈴身とか北九州の着工から竣工が2026年の4月とか7月なので、社長、本当にど素人の考えなんですけど、今御社の主要なお客様の25年から出ていくエッチャーの数だとか考えると、御社のこの設備、間に合うのかなって、正直思っています。社長が先ほど、今の既存の設備のキャップアップをやってらっしゃるので、多分それで当面しのげるのかなって思ったのですけど。

素人から見ると、26年の4月の竣工って遅くないかというようなイメージを持つぐらい御社のお客様の独断場みたいな製品が多くなっているのです。そんな感覚を持つのですが、それはいらぬお節介だと思うのですが、社長はどんな感じで思っていますか。

**小林 [A]**：実は昨年ちょっと踊り場が来て半導体の成長が突然止まったのですけど、その2020年21年ぐらいからですね、半導体はかなり計画的に需要上昇するっていうことの情報をもとに、われわれのほうがかパアアップに向けての投資をもうすでにしていまして、そのキャパアップの投資を上回るのが、おそらく28年頃だろうと踏んでいます。28年ぐらいまでは、今の現行設備でこなせないことはないのですが、もちろんその人員的には二交代だとか三交代だとかっていうその部分は含めないといけないかもしれないですけど、現状の設備で、おそらく28年ぐらいまでは対応できる。

その先を見込んだ設備投資がこれから行われて、2026年に竣工して、そこに設備をどんどん投資していくかどうかというのはちょっとずつ計画を立てながら、建物は建てるけど、全部埋めてしまうというわけではなくて2028年以降のその増加に向けて対応できるように、まずは考えようかなと思っています。

**氏原 [Q]**：わかりました、よくわかりました。ありがとうございました。

**司会 [M]**：ありがとうございました。はい。手を挙げてらっしゃる方、今マイクを持って参ります、少々お待ちください。

**大澤 [Q]**：どうもありがとうございます。いちよし証券の大澤と申します。大きく三つなのですけれども一つ目が同じ足元の話なのですけど、ちょっとお答えいただいたのと若干違うニュアンスを持っていて。1-3月の受注って10-12とあまり変わってないのですけれども、引き合いは国内的に結構強まったのではないかとこのように捉えています。早ければ逆に夏っておっしゃいましたけど早ければ4-6月ぐらいから受注、溶射のですね、半導体の受注が変わってくるかなっていう感触を持っていて。

要はただ、よそのですね、サプライヤー例えばパーツメーカーとかのところの回復を聞くと、特に今のところ、例えば秋とか冬前とかって変わってないところがもっとあるので、仮にそのトーカ

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



さんの戻りが他社よりも早いとした場合、サプライチェーンで相対的に川上に位置しているからなのか、あるいはさっきお話あった在庫調整というところはある程度終了してきたからという要因なのか。

あるいは他に、何か個別の固有の要因がおありなのか、そこら辺はどんなかたちでしょうか。

**小林 [M]**：それは当社のその半導体分野の数字の伸びについて。

**大澤 [Q]**：足元の引き合いの強まりってというのは他社と比べると少し早い印象を持っているのでなぜでしょうかという質問になります。

**小林 [A]**：確かにどん底は超えたのですよ。

昨年の後半、下期ぐらいから、2023年10月頃からです、やはり在庫調整を、在庫をはかなきゃいけないという方向にシフトしていて、ちょっと極端に生産を抑えた部分があるのです。かなりわれわれの生産キャパからすると50%以下ぐらいまで生産を抑えて半年が過ぎてみたら、そのどん底からすると30%ぐらい上昇したかなというのはこの2月頃からの動きです。

なので、期が変わった途端にちょっと数字が上向いたように見えるのはそのせいなのですが、でもわれわれから見ると、そんな大きな数字に、元々の例えば2022年度かな、2022年度のピークから見ると5割ぐらいの生産しかしてないところもやっぱり今でもあって、そのまま推移しているという状況にあります。

なので、そんなに早いっていうわけじゃなく、ちょっと極端に止めたのが戻ってきているっていう。イメージだと思います。

**大澤 [Q]**：わかりました、ありがとうございます。

二つ目が、半導体製造装置向けのコーティングのところなのですが、今現在で例えばZACとかそういったところの確認になるのですが、ZACとかそういったところが使われているか。

要は溶射以外ですね、使われている案件がもう結構何か動き出しているかとか、あるいはもし仮にそうだとするとどういう部品に、どういう目的で使われているかっていうところがありますでしょうか。もしそういう案件がなければ結構です。

**小林 [A]**：排気系とか。われわれのメインとなるのはチャンバーってところの中なのですが、その中でガスを使うのですが、そのガスの排気系とかには当社の別の表面改質技術も使われるようになっています。そういう点では今まで主力を置いていたそのパーツ以外のパーツに徐々に使っていただけになってきた。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



またドライエッチングの激しいチャンバーではそういうことはできないのですが、それ以外のドライエッチングではないチャンバーでは、そういうものを採用していただける会社さんも出てきたっていうのが正直なところ。でもまだ開発している段階で、基本的には生産にがっつき乗っているっていうわけではありません。

**大澤 [Q]**：これちょっと素人質問になってしまうのですが、例えば排気系のところを ZAC とかにすると既存の溶射と何がどう変わって、例えば安くできるとか、どういうメリットがあるっていうことでしょうか。

**小林 [A]**：排気系に ZAC と言ったのですが、基本的には腐食性ガスを結構使うので、ガス配管の中が腐食していく、その腐食を止めることができるっていうような用途があったりします。

また、吸気系のガス配管の中になってくると、今度は金属汚染とかを金属コンタミ防止みたいところで、腐食性ガスが流れても腐食しないように止めることができるというようなことも狙っています。

**大澤 [Q]**：ありがとうございます、最後すみません。

これからの環境エネルギーに力を入れていかれるということで、今現在、火力発電ですかね、ガスタービンですか、そういう認識で言いますが、例えば水力地熱バイオマスとかっていうところも取り組まれる中で、今現在、例えば産業の中にどれぐらいやって、これがどういう増え方になっていくかっていう。いわゆる火力以外ですね、エネルギー関係のいわゆるビジネスとしての成長の流れっていうのはどのようにお考えでしょうか。

**小林 [A]**：ちょっとその数字的な動きっていうのは申し訳ないですけど把握できていなくて、火力以外この場で言うのが妥当かどうかかわからないけれど、火力以外を全て集計しているわけではなくて、今のエネルギー関連の数字はやっぱり火力関係の数字も含まれた形で集計しています。

なので、火力以外っていうことで数字を把握しているかって言われるとちょっと難しくて、火力以外で何かやっているかっていう話ですけど、もちろん火力以外でもいろいろなところでやっていて、トーカーとしては、バイオマスもやるし。

やっぱり溶射って現地工事ができるというすごく大きな特徴を持っていますので、現地に対応する何かっていうのはこれからもやっていこうと思っています。

一方で、火力についても、いろいろ大手さんが今、アンモニア混焼やられているやつの後押しだったり。あるいは IGCC 石炭ガス化発電に向けての日本の取り組みっていうのも、われわれちょっとそういうふうに最終的にはなくなるかもしれない技術かもしれないけれども、今の電力を維持して

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

いくために必要なそういう新たな試みですね。そっちには協力していこうっていうようにやっていますし。

あと今後メタンだとかアンモニアだとか、そういう何か液化ガスを使うような市場がこれから増えた場合、水素もそうかもしれないけれども、そういうものを気化させる部品ってどうしても必要で、そういう気化に使うような装置に対しても、当社は取り組んでいってまして。

その市場とかもこれから今はまだ液化天然ガスの気化を使っていますけど、将来的にはそういう自然エネルギーで作ったメタンだとかアンモニアだとかっていうガスを液化した液を気化できるような装置にも採用していただくように注力をしています。

**大澤 [Q]**：ありがとうございます

東日本震災の後に結構 LNG ですとか NAS 電池とか結構環境に目が集まって、そこ伸びるかなっていう期待したときに、あまり伸びなかったという経緯があります。今回だからまたもう 1 回注力されるってことで、結構半導体だけでない成長要因ですねリアルな。期待できるのかどうかっていうところが知りたかったということですけども。

**小林 [A]**：一つのもので半導体業界を上回る何かのビジネスが生まれるとは思ってなくて、いろんな、先ほど申しましたけれど、そういうアンモニア混焼に関するもののビジネスであったり、液化ガスを気化させるビジネスであったりっていうのが、一つずつが 10 も 20 も重なって、いずれ半導体業界と肩を並べるようなビジネスモデルができれば、いいかなというふうに私は思っています。

ポスト半導体というものの、ビジネスが一つの言葉では表せないかもしれないけれども、ポスト半導体に向けてのその取り組みっていうのは 10 も 20 もビジネスモデルを立ち上げることだというふうに現段階では考えています。

**大澤 [M]**：わかりました。ありがとうございます。

**司会 [M]**：ありがとうございました。

**細田 [Q]**：プルータス・コンサルティングの細田と申します。ご説明ありがとうございます。

30 ページの株主資本コストに関わるご質問を 2 点させていただきたいと思っております、御社今回レンジで 8 から 10% ということで、レンジで出されていらっしゃいます。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



レンジで出されますと当社から見た場合のバリエーションが、エクイティスプレッドがどれだけ本来あるのかというのがなかなか分析しにくいということで。今後、御社としての株主資本コストをレンジじゃなくピンポイントで出していき、そんなご予定があるのかというのがまず一点。

あと、資本コストを出すに当たってパラメーター、ベータとかりスクプレミアムだとか、そんなところを開示されていく計画とかご予定なんかはあるのかというのを教えていただきたく存じます。

**後藤 [A] :** はい。ご質問ありがとうございます。管理本部長の後藤です。

レンジで出させていただいていますのは、私どももちろん自分でも算定を試みておりますが、本日お越しの証券会社の皆様からも、今いろんな数字を教えていただいています。当然今ご質問の中で触れられたようにいろんなパラメーターの取り方によって結果は幅が出ております。それを集計して8から10%と書かせていただいています。今後当社が独自に算定したものを、あの点で出す予定があるかということは今後の検討課題とさせていただきたいと思っています。

パラメーター有無を目標に掲げるほどちょっと資本コストそのものに対して、当社の取り組みが進んでいないのかもしれないけれども、そういった方向性についても研究してまいりたいと思います。よろしいでしょうか。

**細田 [M] :** はい、ありがとうございます。

**司会 [M] :** ありがとうございます。他にございますでしょうか。

もしないようでしたら、オンラインでご参加の方からの質疑応答に移らせていただきたいと思いますと思いますが、これまでのところ、ご質問はオンラインでのご質問はございません。

つきましてはもしよろしければ、以上をもちまして本日のトーカロ株式会社様の決算説明会を終了とさせていただきますと存じます。

小林代表取締役様、そして後藤様、細見様、清水様、本日はありがとうございました。

ご参加の皆様、どうもお忙しい中ご出席いただきありがとうございました。

[了]

---

## 脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

